

島教協

情報報

No.563

島根県教職員協議会

〒693-0011

出雲市大津町2214

Tel 0853(22)7762

Fax0853(22)7762

代表者 安達利幸

編集人 奥井克己

E-mail

office@kyougikai.org

http://

www.kyougikai.org

年頭所感

心の豊かさを求めて

会長 安達利幸



新しい年、平成一九年も気がつけば一月も後半となりましたが、会員の皆様には希望に満ちて新たな年をお迎えになられたことと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年三月に総務省が実施した「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数調査」の集計が七月にまとまりました。それによると、わが島根県は昭和六三年から一八年連続で人口が減り続けている一方、人口に占める老年人口（六五歳以上）の割合が二六・八%と、依然として全国で最も少子・高齢化が進んでいることが顕著となりました。そして現在七四万強の人口は二〇一五年には六九万人を切る事が予測されています。現実なのは、何もしなければ、（いや、たとえ何かしたとしても）厳しい現在の社会環境が劇的に改善される特効薬はない、という一点です。しかし、視点を変えようと、この人口減少の真ただちにある本県においては、その将来は一人一人の子どもに負うところが極めて大きいということがいえます。それだけに、「ふるさとを担うための大切な人材を育成する」という、極めて意義の大きな営みに私達は職を置いているわけです。この職責の重さを十分に自覚しながら、今後も職務にあたりたいと考えます。

さて、話は変わり私事で恐縮ですが、元旦のご来光を拝もうと、ここ二年続けて地元の方に登っています。行き過ぎる多くの車を尻目にジヨギングで行くのですが、箱根駅伝五区、山登りのスペシャリストの異名をとる、順天堂大学・今井選手のように颯爽には決って行きません。しかし、汗だくになりながらも昇り来る初日の出を山頂で迎えるのは、この上ない爽快感を覚えます。周囲の人と同様、私も携帯電話を取り出し、カメラ機能で来光を撮りました。が、その時ふと隣を見ると、ご高齢の女性が一人、ご来光に向かっじつと両方の掌を合わせ、頭（こうべ）をたれ、長い間心静かに拜んでいらっしやる姿に出会いました。私は、「日が昇ったぞ、今がシャッターチャンスだ！」と、安易にはしゃいでいた自分自身に恥じ入ると同時に、「美しい日本人の心」を垣間見た気がしました。

人事異動に関するご相談 人事異動調査書変更の場合

島教協
事務局まで！

フリーダイヤル

0120

968-280

そう考えると、上述した高齢化の進む島根は、「美しい日本人の心」を最も身近に受け継ぐ基盤がすでにできている地、と言い換えることができるように思います。携帯の使用に異を唱えるものではありませんが、携帯に象徴される「ものの豊かさ」「文明の発達」だけに眼を向けるのではなく、「文明が進んで文化が廃れた」ということのないように、「心の豊かさ」を志向していきたいものだと思えたひと時でした。

島教協は昨春秋、結成四五年を迎えました。結成当時の先達のご労苦に思いを寄せるとき、バトンを受けた私達の使命の重さに身が引き締まる思いですが、今後とも、会員の皆様の声を広く承りながら、一丸となって進んでまいりたいと思います。私たちはあくまで教育論で語ろうとする教師集団の組織です。その誇りと、「すべては子どもたちのために」という結成当時から理念を胸に、これからも進んでまいりたいと思います。職に誠意をもってあたればあたるほど、日々様々な困難に直面します。それを独りで解決しようとするのはたいへんな負担が伴います。それぞれの勤務先の同僚だけではなく、島教協会員みんなで知恵を出し合い、力を結集して「心の豊かさ」を大切にしながら、課題解決を図っていこうではありませんか。

お年五年賀状抽選結果

奥谷 真理子 様

[出雲市立四絡幼稚園]

伊藤 里美 様

[出雲市立光中学校]

岸 逸郎 様

[出雲市立遙堪小学校]

1月13日の執行委員会において、抽選を行い3名の方が当選されました。粗品をお送りいたします。おめでとうございます。



抽選する後藤副会長

県教委へ要望を実施

教育長「財政難であるが、教育水準は維持する」



藤原教育長(右)から回答書を受け取る安達会長

平成一八年一月二七日(水)、島教協は、県教委に対して要望活動を実施した。県教委側からは、藤原義光教育長をはじめ、各課の課長など一十二名、島教協からは、安達会長・副会長・執行委員一五名が出席し、約一時間、現場の声をもとにした要望事項を訴えた。藤原教育長は、「財政難であり、来年度も給与カット継続をお願いしたい。財政面や教育諸課題が山積している現在、現場の教職員の皆様とともに頑張っていきたい。」と挨拶があった。主要望事項と回答は以下のとおりである。

【重要項目】

▼本団体は、以前より表明しているとおり、給与カットについては、教育水準を下げないことを条件に受け入れてきた。今回の現行給与カット1年間継続の提示についても、現行教育水準を下げないこと。また、現場教職員の士気低下防止対策の具体的な施策を打ち出すこと。

【回答】本県の危機的な財政状況の克服に向けて、さらなる財政改革の方策を検討する間という意味で、現行の給与カットの当面1年間の継続をお願いしている。厳しい財政状況の中ではあるが、少人数指導についての現行水準維持につとめる等、教育予算全般について、可能な限りの確保に努めている。

また、教職員の「資質能力の向上」、「職務に対する意欲の向上」、「学校組織の活性化を図る」ための支援策として、「新たな教職員評価制度」を実施しているところであるが、今後とも、より職務に対する意欲の向上が図れるよう、関係者の意見を聞きながら必要な改善を図っていきたいと考えている。

▼教職員の評価制度については、現場の意見・要望等を十分考慮するとともに、適正な評価ができるよう、引き続き研修会等を通じて、管理職に周知徹底をすること。また、教育専門職としての立場を鑑み、処遇への反映を見据えた制度となるよう、諸条件が整い次第、任命権者としてその姿勢を明確に表明すること。

【回答】本制度については、今後ともより良いものになるよう、関係者の意見を聞きながら必要な改善を行うこととしており、今年度も、教職員団体、公立学校校長からなる評価制度研究会議を設け参考意見を聞くこととしている。

評価者研修については、本年度も実施したところではあるが、適正な評価が行われるよう今後も継続して研修を行う予定である。処遇への反映については、公務員制度改革の動向等を踏まえ、慎重に検討すべきことと考

えている。

▼来年度実施予定の全国的な学力調査と県や市町村主催学力調査との兼ね合いを整理し、子供たちの過重な負担とならないよう措置を講じること。また、個々のより詳細なデータを学級担任に明示するなどの方策により、児童・生徒一人一人の学力向上を反映させるための具体的な措置を講じること。

【回答】現在、国の実施する全国学力・学習状況調査と本県が継続実施を希望している「島根県学力調査」との関連を検討しているところである。小学校6年生と中学3年生をどのように対応するかについては、児童生徒にとって過重な負担となるかどうかを含めて検討したい。

また、児童生徒一人一人の個別データを学力向上に活かすことができるよう、各学校に対して、学校別・学年別・学級別のデータを提供しており、各学校で実態を踏まえ具体策を講じるよう依頼しているところである。



県教委側出席者

